

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	港区港南 4-2-5 シティタワー品川西棟 3 階
園名	ニチキッズさわやか港南保育園

1 活動のテーマ

<テーマ>

いのちと食

<テーマの設定理由>

昨年度年長児から「人の体は何でできてる？ どうして身長が伸びたり体重が増えたりするの？」と疑問を口にする子がおり、それがクラス全体に広がった。「給食いっぱい食べると大きくなるって言ってたよ」「好き嫌いしないでいろんな物を食べると大きくなれるって聞いた」など、体と食の関係に繋がったことから、食育プログラムの探求活動の実施を計画し、食育専門インストラクターとの入念な話し合いとアドバイスや支援の下、園職員が主体となり1年を通して実施した。

1年間の実践が更なる子どもたちの探求心を呼び、また昨年度は見るだけで実施のなかった2歳児も幼児クラスに進級し「やってみたい」という声がたくさん聞かれたため、今年度も引き続き実施した。

2 活動スケジュール

- ① 昨年度は主食に焦点を当て、新米の観察から「大地のいのち」に触れたが、今年度は、では「海や川にはどんないのちがある？」という問いに繋がり、食卓に身近なさんまの食育を行い、観察する、触れる、炭火で焼いて食べてみる経験をする。
- ② さんまよりもっと大きいお魚って何？という更なる疑問、探求が始まり、鮭の解体の様子を見て、それを料理したものを給食で頂く経験をする。
- ③ 身体を作る上で最も大切な「主食」に再び焦点を当て「新米の観察」からお米を炊いて食卓に並ぶ「ごはん」になるまでの様子を観察し、できたごはんで焼きおにぎりを調理する経験をする。
- ④ 命の繋がりという点から米とともに「大地のいのち」である野菜にも関心が向き、身近な野菜をじっくり観察する経験をする。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

探求心、探究活動、協働が広がるように、異年齢のグループに分け、更に専門的な知識を有する食育インストラクターのアドバイスを活かし、園職員も一緒に入念な準備を行った。子どもたちの興味関心を捉え、探求活動を「やってみたい」と自ら思えるよう、保育の中で興味関心を持てるような声掛けを行ったり、調理職員が給食巡回時に話題に触れ、興味関心を引き出したり、活動当日にも様々な提案、声掛けを行い子どもの探求心を引き出した

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① さんまの食育（海のいのちを頂く）
- ② 鮭の解体（魚のからだってどうなっているのかな？）
- ③ 新米の観察と味噌焼きおにぎり作り（大地のいのち）
- ④ 野菜の食育（大地のいのち いろいろな大根）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

インストラクターの説明や声掛け、語り掛けに対し、自由な発言がたくさん聞かれた。保育者はそれを否定せずに聞き、認めることで、子どもたちの自由な発言をさらに引き出すことができ、それがさらなる探求心を引き出すことに繋がった。自分が疑問に思ったことが目の前でわかるようになることが嬉しく、目を輝かせながら参加する姿が見られた。活動中、小グループごとに職員がつき、個別に声掛けを行って、自由な発言や発想、探究心を引き出すように努め、様々な反応が見られ、夢中になって取り組む姿が見られた。またさんまや鮭など実際に生きて動いている姿が容易に想像できる魚の食育を行うことで「いのちを頂く」ことの意味が伝わっていたのではないかと感じられた。

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの発言や反応をある程度予測しながら行ったが、実際はそれ以上に多くの発言や反応が見られ、子どもたちの発想力、対応力の高さに関心した。また、こちらの環境設定、アプローチの仕方の工夫により、子どもたちの知りたいという探求心、やってみたいという意欲が高まっていることが伝わり、子どもたちの行動や発言を予測した環境設定や言葉かけなど工夫して、今後も探究活動を行っていきたい。また、命への感謝や、調理工程を見てわかる食材の変化など、子どもたちとともに職員も様々な学びを得ることができたと思う。





